

第1回大船渡市総合戦略推進会議 議事録

1 開催の日時及び場所

(1) 日時 平成27年5月18日(月) 午後3時から午後4時40分

(2) 場所 大船渡市役所 地階大会議室

2 委員の現在数 35名

3 出席者

(1) 委員 33名

荒木健彦 紀室裕哉 熊谷孝嘉 佐藤光男 菅野均 菊池透 齊藤光夫
猪股岩夫(代理者出席) 舘脇清(代理者出席) 熊谷秀雄 野間美夏子 鈴木良夫
小林夏樹 伊勢貴 今野隆弘 今野義雄 大槻英樹 及川秀明 飯島キイ子
藤田勝敏 富手裕基 大畑正彦 伊藤哲平 吉田貴俊 内城俊充 千葉雅弘
熊谷淳一 佐々木美穂 米谷直 大関輝一 今野光子 近藤均 今野節夫

(2) オブザーバー4名

大船渡地域振興センター2名、東北銀行大船渡支店1名、北日本銀行大船渡支店1名

(3) 市職員 14名

市長 戸田公明 副市長 角田陽介 教育長 今野洋二
災害復興局長 佐藤高廣 企画政策部長 志田努 総務部長 佐藤良
商工港湾部長 三浦勝朗 農林水産部長 尾坪明 都市整備部長 西山春仁
会計管理者 今野芳彦 水道事業所長 中井吉隆 議会事務局係長 金野敏夫
教育次長 木川田大典 地域福祉課長 熊澤正彦

(4) 事務局 5名

企画調整課長 新沼 徹 課長補佐 山口 秀樹 福島公洋 藤井勇成
主任 鈴木 亨

4 議事の経過

午後3時に志田企画政策部長の進行で開会した。

はじめに、委嘱状の交付が行われた。交付は戸田市長から委員35名を代表し荒木健彦委員へ交付された。

続いて、戸田市長から日頃からの市政各般へのご支援、ご協力への感謝を述べるとともに、「まち・ひと・しごと創生総合戦略については、日本全体が人口減少局面に入らる中で、持続可能な地域づくりに資するための具体的かつ効果的な事業を計画し、行政だけでなく、市民の皆さんをはじめ、産業界、教育機関、金融機関、労働団体、メディアなどの関係団体が連携して取り組むものとして策定するものである。策定にあたり、委員の皆様方には忌憚のないご意見をお願いしたい。」とあいさつがあった。

戸田市長はここで退席し、次に新沼企画調整課長から資料に基づき、次第4「(1)大船渡市総合戦略推進会議の役割について」及び「(2)策定基本方針等について」について一括で説明があった。

○議事(1) 会長及び副会長の互選について

志田企画政策部長から大船渡市総合戦略推進会議設置要綱第5第1項により推進会議に会長及び

副会長各 1 人を置き、委員の互選とするとの説明の後、選出方法について委員に諮ったところ、委員から事務局案を示すよう提案された。志田企画政策部長から事務局案として、会長には紀室委員、副会長には米谷委員をお願いしたいと提案し、委員に諮ったところ、委員からは異議がなく、拍手で承認された。

紀室会長が議長席に着き、紀室会長から「本推進会議については、人口減少に一定の歯止めをかけ、大船渡市の今後のビジョンの策定を担う重要な会議である。皆様のご協力をお願いしたい。」とあいさつがあった。

ここからは、大船渡市総合戦略推進会議設置要綱第 6 第 2 項の規定により、紀室会長が議長となり進行した。

○議事(2) 大船渡市人口ビジョン(素案)について

議長が事務局に「(2)大船渡市人口ビジョン(素案)について (資料 5)」の説明を求めた。

事務局の新沼企画調整課長が、資料 5-1 に基づきスライドを交えて説明した。「Ⅳ 市民意識調査結果について」は説明を省略。

議長が質問、意見を求めた。

今野(節)委員から、「Ⅲ 人口の将来展望について」の「2 人口の将来展望(1)大船渡市独自推計③」について、「移動で毎年 200 人増やす。H20～22 の推移から見ると 436 人／年の増となるとのことだが、転入者の職や住居の提供をどのように考えているか。」と質問された。新沼企画調整課長が、「これから皆様のお力をお借りしながら効果的な策をつくり上げていきたいと考えている。」と回答した。

○議事(3) 意見交換

議長から、「委員の皆さんは、それぞれの分野を代表されている方ですが、そうしたことにこだわらず、市の将来について発言いただきたい。」との説明の後、各団体の委員からの発言を求めた。

【産業団体】熊谷(孝)委員から、「現在、復興特需で、建設関係は人材不足である。大手企業のほうが賃金体系も良く、求人がそちらに流れ、地元企業には定着しない状況である。高校を卒業し、進学等で外に出て行くことは仕方がないことだが、若い方がふるさとに戻って来られるような魅力あるまちづくりが、人口問題に大きく関わって来るのではないかとと思われる。その点も踏まえ、計画策定を進めるべき。」との意見が出された。

【産業団体】野間委員から、「観光を第 1 歩として大船渡に興味を持っていただき定住に繋がれば良いと思う。また、自分自身、今後結婚・子育てなど関わっていく分野であると思われるのでよろしくをお願いしたい。」との意見が出された。

【行政機関】鈴木委員から、「先般、首都圏在住の方を対象に、U I ターン就職フェアと称する就職面接会を開催した。全体で百数十名が参加し、ハローワーク大船渡ブースに来た方は 4 名。U ターンの相談であった。気仙管内の有効求人倍率は本年 3 月時点で 1.34 倍。最近の有効求人倍率で最も高かったのが、昨年の夏から冬にかけてで、5 か月連続で 2 倍を超えた。有効求人倍率について補足すると、「仕事を探す方 1 人あたりに対し何件の求人があるか」を意味し、倍率が高いほど人手不足を意味する。」との情報が提供された。

【教育機関】今野(隆)委員から、「現状では、児童数は減少し続けている。将来、地域に戻って来るような子どもたちを育てていければと思っている。人なので、すぐに生まれるわけではなく、長

期間を見据えて、大船渡市としてどのような形で人口増加を図るかが課題と思われる。」との意見が出された。

【教育機関】大槻委員から、「高校卒業とともに人口流出が始まっていることが現実かと思われる。子どもたちも、いつかは戻ってきたいと話しているが、現実には魅力ある職・雇用、あるいは大学等に進学した生徒の専門性を生かせる職場がない。流出した子どもたちが戻れないのは、当然であると思われる。また、市外から来ると大船渡には居住する場所が少ない。他の業種でも定住する場所がないために諦めているケースもあるのではないか。」との意見が出された。

【金融機関】藤田委員から、「市では起業支援室を立ち上げたが、起業が実現したケースはどれくらいあるのか。」と質問された。三浦商工港湾部長から、「平成 25 年に起業支援室を立ち上げた。伴走型で継続して支援している。これまで、ケーキ屋や移動販売の店を起業された方もいる。今後も継続していきたい。」と回答した。

【労働団体】吉田委員から、「進学等で大船渡市を出た人が戻ってきた時、企業との橋渡しがスムーズに出来るようになればよいと思う。企業誘致にももっと加速力がほしい。子育てについても経済的な支援がもっとあればと思う。」との意見が出された。

【メディア】内城委員から、「戻ってきたいと思っている子どもたちが戻って来られない理由、あるいは離れていってしまう理由を調査する必要があるかと思う。」との意見が出された。

【民間団体】米谷委員から、「人が集まってくる地域にするために、何をすべきか考えていきたいと思う。」との話があった。

各団体から一通り意見等が出された後、議長から、「今回は第 1 回ということで、各団体から意見・質問等をいただいた。今後、ワークショップ形式で議論を重ねる中で、それぞれの問題点などが明確になってくるものと思われる。」との話があった。

議長からその他何かないか委員、事務局に問いかけたところ、副市長から「本日は人口ビジョンについて説明させていただいた。シミュレーションでも説明したが、人口は何もしなければ減少していく。人口が下げ止まるとしても、かなり子どもの数を増やさなければならない。かつ、外から人を呼び込まなければならない。そのような社会をつくらなければ、下げ止まることすら難しい状況である。本日は、現状がそれほど厳しい状況であるということを委員の皆さんに認識してもらいたかった。2 回目以降ワークショップということになるが、ご意見をいただきながら、市をあげて取り組んでいきたい。」との話があった。

その後、大関委員から、「人口減少が悪いことなのかという認識を持つ必要がある。人口が減少することが悪いのではなく、減少することによって起こる影響について、具体的に議論しなければならない。本日の議論には数の話しか出てこない。国のまち・ひと・しごと長期ビジョンには人口減少による影響について記載されている。この大船渡版を作成する必要があるかと思う。大船渡市で人口が減少した場合、何がどれくらいの規模で起こるのかという分析が必要である。」との意見が出された。

議長が午後 4 時 40 分に閉会を宣言した。

以上